

ラインナップ！小児泌尿器科の手術，余さずお見せします

企画にあたって

「臨床泌尿器科」愛読者の皆様に「ラインナップ！ 小児泌尿器科の手術，余さずお見せします」をお届けします。

2020年6月に本誌で「小児泌尿器科オープンサージャリー ― 見て学ぶプロフェッショナルの技」を特集しました。その頃，泌尿器科では多くの施設で腹腔鏡手術やロボット支援手術が普及しつつあり，小児泌尿器科領域でも患児にやさしいそれらの低侵襲手術が始まりつつありました。そんなときにさまざまな小児泌尿器科手術を，手術の基本である開放手術の形で，イラストとともに動画で特集しました。

開放手術は内視鏡・腹腔鏡手術のように自動的にビデオ撮影をすることができないために，動画を用いた特集は難しいと言われていました。そこに各疾患の手術を1～数分ずつだけでも供覧することで，理解しにくい手術手技をビジュアルで分かりやすい画像で体験していただければ，大変好評をいただきました。

月日が経つのは早いもので，その特集から5年が経過しました。欧米では当たり前になっている低侵襲手術が，わが国の小児泌尿器科領域にも徐々に普及しています。その時代の流れを示すものが，さまざまな小児泌尿器科疾患の手術に対する保険適用の拡大と追加です。2020年4月に先天性水腎症（腎盂尿管移行部通過障害）に対するロボット支援下腎盂形成術，2024年7月に腹腔内の停留精巣に対する腹腔鏡下のFowler-Stephens手術と膀胱尿管逆流に対する膀胱外アプローチの腹腔鏡手術が保険収載になりました。

開放手術も，巨大尿管を伴う膀胱尿管逆流の手術，埋没陰茎の修復術，精巣腫瘍の部分切除術，精巣捻転の反対側の予防的精巣固定術が保険収載に追加となり，陰嚢水腫や包茎の手術の診療報酬が加算されました。

今号では、小児泌尿器科で行われているさまざまな手術について、開放手術とともに低侵襲手術について、図解を加えて解説していただきました。

前半は「泌尿器科医がジェネラルに習得したい手術」としました。包茎、停留精巣、陰嚢水腫、精巣捻転、精巣腫瘍などの疾患につき、小児泌尿器科のスペシャリストの方々に手術工程を分かりやすいイラストも用いて紹介していただきました。そしてこの企画の目玉である手術のさわりの部分の動画も準備していただきました。読者の皆様にはスマートフォンやタブレットで映像をご覧ください。

後半は「小児泌尿器科スペシャリストの手術」と銘打ち、専門領域の稀少疾患の手術や難度の高い手術をエキスパートの先生方に紹介いただきました。これらの手術は小児泌尿器科領域で代々受け継がれてきた匠の技を駆使したダイナミックな手術ばかりです。もちろんこちらも動画を視聴することができます。

本特集で勉強して下さった先生方の中から、近い将来、サブスペシャリティとして小児泌尿器科の道を選び、小児期、AYA 世代、成人期まで責任を持って診療を続けてくれる泌尿器科医が育つことを、企画者として心より祈念いたします。

名古屋市立大学医学部附属東部医療センター

林 祐太郎